

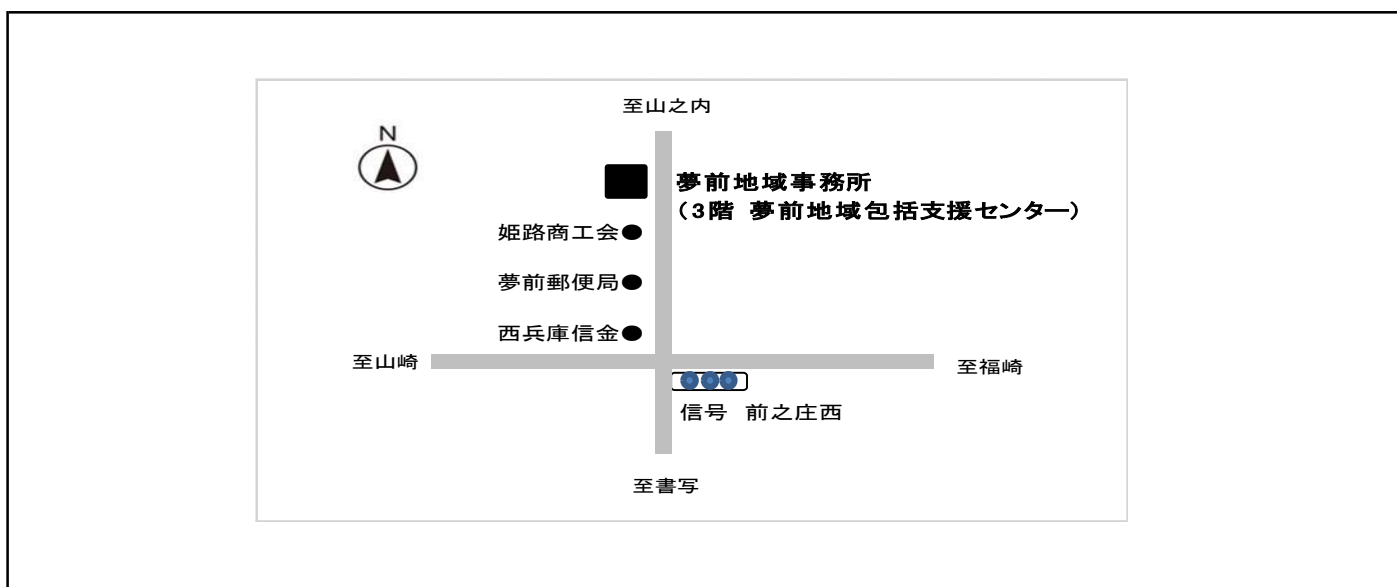
## 地域包括支援センター適正運営評価 基本調査票

### 【地域包括支援センター概要】

センター名称	姫路市夢前地域包括支援センター
法人名	社会福祉法人光寿福祉会
所在地	〒671-2103 姫路市夢前町前之庄2160番地
電話	079-336-3711
FAX	079-336-3722
ホームページURL	無し

### 【センターの案内】

センターまでの交通手段	姫路駅から前之庄行きバスに乗り、前之庄駅で下車、歩いて2分
-------------	-------------------------------



### 【センターが所在する地域の特徴・特性】

- ・夢前町は姫路市の面積の約1/4である
- ・夢前町の人口は平成9年の22000人から人口は減り続け、令和2年には17100人以下まで減少した。
- ・子供の人数は少なくなり、高齢者は相対的に増え続け、山之内地区は高齢化率60%を超え、夢前町全体では35%を超えている。
- ・世帯の構成では姫路市では1世帯3.35人であるのに対し、夢前町では1世帯2.25である。独居高齢者や高齢者世帯が増えつづけている。
- ・公共交通機関は、主にバスである。最寄りのバス停まで1キロ以上歩かなくてはいけない村もある。前之庄から山之内までのバスは廃止され、コミュニティバス(通学用バス)が1日6便が走行している。自家用車での移動がなくては生活はしにくい、今後免許返納後の問題が多くなる。
- ・子供の人数が少なくなり、小学校の統廃合も問題になっていくことが予想される。
- ・夢前町内には特別養護老人ホームを運営する法人が4法人、老人保健施設を運営が1法人、デイサービスは6か所、デイケア1か所、グループホーム2か所、訪問看護1か所、訪問介護3か所ある。
- ・医療機関として1病院、5診療所が地域医療の要になっている

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

- ・夢前町の地域包括ケアシステム構築のため、町内の居宅介護支援事業所8カ所の管理者との連携や夢前介護サービス事業所連絡会「あゆみの会」の共同運営に力を注いでいる。
- ・生活支援体制検討会議の運営は、5者(社会福祉協議会、保健センター、準基幹型包括、姫路市地域包括支援課、夢前地域包括支援センター)で行っている。今年度からは新型コロナウイルス感染対策として地区代表と5者とで懇談会を持つことになった。
- ・いきいき百歳体操や認知症サロンの継続支援に力を注いでいる
- ・各地区の公民館との連携を強化、公民館講座の講師調整を行っている。夢前町内の薬局、整骨院をはじめ、医療介護連携センター、行政書士などとの連携もできつつある。
- ・居宅介護支援事業所のケアマネジャーへの支援として、ブロック研修の開催や災害時のBCP、虐待対応措置の研究会の立ち上げを行った。

### 【令和5年度末の担当圏域の目指す姿】

- ・地域包括ケアシステム構築の根幹の一つである、医療、介護、生活を支える地域活動の連携が強化され、医療、保健、介護、福祉、地域が一体的に取り組めるようになる。
- ・各地域では「通いの場」が取り組まれ、フレイル予防、認知症予防、見守り、支え合いが自主的に行える地域づくりがすすむ。
- ・民生・児童委員と居宅介護支援事業所のケアマネジャーとの連携がすすみ、地域包括支援センターとともに地域の困難事例に取り組めるようになる。

## 地域包括支援センター適正運営評価 評価意見書(総評)

センター名称	姫路市夢前地域包括支援センター
実地調査日時	令和3年9月30日

### 【第三者評価で確認した特徴的な取り組み、工夫点】

置塩、筋野、前之庄、上菅、古知、菅生公民館で、地域包括支援センターが支援をし、健康づくりのための公民館講座を開催している。広範囲である地域の為、行動的アプローチとしてケアマネジャー・民生委員を通じての相談を集約することに特に力を入れており、独自の情報の共有ガイドラインを作成し、警察、自治会長、民生委員などと良好な関係を築いている。地域で住み続けるために研究会を発足し、安心できる町作りに取り組んでいる。

### 【第三者評価で確認した次のステップに向けた気づきや取り組みを期待したい点】

フレイルチェック実施後、リスクチェックにマークされた人に対するアプローチとして、次に繋げる取り組みが、明瞭ではありません。地域ケア会議を基盤として通いの場に結びつけ、年齢に関係なく参加できる地域活動の場への参加につなげていく工夫に期待したい。

### 【評価結果に対する地域包括支援センターのコメント】

少子高齢化が市内でも劇的に進む地域で、介護予防、認知症予防の活動が求められる。特にフレイル予防には今後力を入れていく。夢前地域包括支援センターでは、住民が住民のフレイル予防活動の中心になるよう仕組みを考えるとともに、通いの場への継続支援やリスク対象者への個別の支援を行っていく。

### 【備考・その他】

事務所が手狭になっており、相談場所の充実が望まれる。

評価項目・着眼点		基本目標1:生きがいを感じながら暮らすための支援の充実	
		(基本的な考え方) 人生100年時代、介護予防に努め、いつまでも自分らしく、生き生きと暮らすことが大切です。そのために、身近な地域活動への参加を増やし、継続することが必要となります。その生活スタイルを周知するとともに、地域活動の場へ通い続けることができる環境づくり、地域で役割をもって暮らすための地域づくりに取り組みます。	
		①	介護予防に関する認識の变革
			85歳以上の高齢者に対し、「通いの場」である「いきいき百歳体操」と「認知症サロン」への参加促進を行い、フレイル予防につなげる。 市民向け講座などでフレイル予防に関する啓発・周知を進めフレイルの危険因子を持つ人等を早期に発見する取り組みを進める。
②	高齢者が通える場があるまちづくり		
	介護予防への意識が高くない高齢者を通いの場に誘導するとともに、フレイル等で通いの場への参加が中断することを予防するための取り組みを充実させる。		
センター記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきいき百歳体操」や「認知症サロン」においてフレイルチェックを行っている。県の事業でオーラルフレイルチェックにも協力した。</li> <li>・置塩、筋野、前之庄、上菅、古知、菅生公民館で、地域包括支援センターが支援をし、健康づくりのための公民館講座を開催した。</li> <li>・2021年度福祉フェスタの記念講演で製鉄記念病院八幡先生の「加点式健康診断と中山間地における健康づくり(仮)」の講演に協力予定。</li> </ul>	
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フレイルチェックは1問1問説明をしながら行っている。チェック後個別訪問の必要な人への支援をしているが時間がかかる。</li> <li>・公民館講座は公民館が中心になって宣伝をしているが、回を重ねるごとに参加人数がへっている。</li> <li>・福祉フェスタは新型コロナウイルス感染防止を念頭に準備を進めているが、会議を開催せずに準備するのが難しい。</li> </ul>	
	目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いきいき百歳体操」や「認知症サロン」へ看護師や認知症担当以外の地域包括支援センターの職員も訪問しておこなえるようにする。</li> <li>・公民館講座の内容をチラシなどで分かりやすく宣伝できる支援をおこなう。</li> <li>・福祉フェスタは、今までの経験をいかし新型コロナ禍でも準備をすすめていく。「通いの場」や公民館、介護サービス事業所、自治会へチラシ配布を行った。</li> </ul>	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<p>現在33か所の「いきいき百歳体操」、12か所の登録された「認知症サロン」そして登録されていない「認知症サロン」も含め約900人が「通いの場」に参加し、フレイル予防に努めている。コロナ禍の中で開催出来なかった活動もあるが公民館活動が盛んでありフレイルチェックの16項目、オーラルフレイルチェックにおいては歯科衛生士の指導の元、時間をかけ丁寧に支援をしている。神戸大学医学部より医師を招き「よいとこ健診」と称し健康増進、予防を保健センターとも共有し、地域住民に取り組みを広めている。</p>	
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	<p>フレイルチェック実施後、リスクチェックにマークされた人に対しての、アプローチそして次に繋げる取り組みが、明瞭ではありません。少ない職員での地域活動への参加は困難なこともあります。公民館講座を活用し、高齢者が生き生きと参加され、より楽しみが期待されるアプローチに期待したい。</p>	

評価項目・着眼点	基本目標2: 困りごとを地域全体で受け止める体制の構築	
	(基本的な考え方) 日常生活圏域単位に市民に身近な場所への地域包括支援センターの設置を継続し、地域の高齢者、その介護者の生活スタイルに対応できる相談体制の強化を行います。困りごとを抱える高齢者やその家族への支援を行う中で、地域共生社会の実現に向けて、他との連携を進めていきます。	
	①	地域包括支援センターの運営 地域包括支援センターが、介護サービスの相談先以外の役割を持っていることを地域で認識されるようになる。
	②	地域包括支援センターの機能強化 地域包括支援センターの専門性を活かした相談機能を強化する。
センター記入欄	③	世代や分野を超えた地域のつながりの構築 地域共生社会の実現に向け他分野との連携を強化する。
	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夢前地域包括支援センターと夢前民生委員・児童委員協議会の校区代表、そして居宅介護支援事業所管理者連絡会の三者で「民生委員とケアマネジャーとの連携・情報共有ガイドライン」を作成した。地区別懇談会や支えあい会議に民生委員とケアマネジャーとの連携ができるようになった。</li> <li>・病院関係者からの情報提供や自治会長や民生委員からの相談が増えた。ゴミ屋敷問題や虐待の疑い事案、精神疾患、知的障害などの相談も寄せられている</li> <li>・「いきいき百歳体操」の場で「新型コロナウイルス対応と風評被害」について保健センターと一緒に説明会を行った。</li> </ul>
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括支援センター職員の資質の向上が求められる。介護サービスで解決したとしても、介護保険制度以外の制度や多職種・多機関(保健センターや高齢者支援課、生活援護室、成年後見支援センター、社会福祉協議会など)で検討する力を身につける。</li> </ul>
目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支えあい会議や地域ケア会議の開催、事例検討会に地域包括支援センターの三職種と認知症担当者、関係する職種や地域の方々が参加しておこなえるようにする。</li> </ul>	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	<p>広範囲である地域の為、行動的アプローチとしてケアマネジャー・民生委員を通じての相談を集約することに特に力を入れている。独自のガイドライン「情報の共有」を構築し、ケアマネジャー、民生委員、地域包括支援センター、社会福祉協議会の協力にて困りごと、身近な問題など地域住民の声を細やかに分析し、共生に向けての取り組みガイドラインの作成をし、警察、自治会長、民生委員などと良好な関係を築いている。</p>
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	<p>総合相談「病院関係者・自治会長・民生委員」から介護、環境整備、障害、虐待の疑いなど様々な相談件数が寄せられているが障害全般の悩みを解決できる専門職員が不在なために中央保健センター安富分室に繋げている。今後は、職員の資質向上を目的として、専門知識の向上の取り組みに期待したい。</p>

評価項目・着眼点	基本目標3: 地域で暮らし続けるための支援の充実	
	虚弱・軽度要介護者の重度化防止、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用を図ります。	
	多様なサービスの活用	① 地域の通いの場や多様な主体で展開される介護予防生活支援サービス、在宅医療・介護の連携体制及び認知症高齢者等への支援に係るサービス(地域支援事業)を効果的に活用して、虚弱・軽度要介護高齢者の重度化予防・自立支援を図る。そのために、地域包括支援センターが担う取り組みや事業としては、地域ケア会議推進事業、生活支援体制整備事業、通いの場の充実、認知症の人への支援などがあげられる。
センター記入欄	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活支援体制整備事業は、検討会を開催する前に保健センター安富分室、社会福祉協議会北部事務所、北準基幹地域包括支援センター、夢前地域包括支援センターと姫路市地域包括支援課の五者が集まり、現状分析や方向性について検討している。新型コロナウイルス感染対策として地域の代表者(校区の連合自治会長、社会福祉協議会支部長、民生委員校区代表)で協議を行う事になった。</li> <li>居宅介護支援事業所管理者連絡会や多職種連携のための「夢前介護サービス事業所連絡会」を定期的にもっている。</li> </ul>
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス禍での検討会議の持ち方として、少人数で密を避けながら行わなくてはならないため、代表者との会議になってしまう。夢前全域会議の持ち方も今後の課題である。</li> <li>新型コロナウイルス禍で居宅介護支援事業所管理者連絡会や夢前介護サービス事業所連絡会を持ちにくくなった。</li> </ul>
	目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>五者会議での情勢分析にいろいろな資料をつかって検討をおこなっている。今年は各校区の特徴を反映した資料作りをおこなう。</li> <li>災害時のBCP等の研究会を発足させた。8月17日第1回の研究会を開催、居宅介護支援事業所のケアマネジャーや福祉用具事業者やデイサービスの事業者が集まり課題を抽出した。</li> </ul>
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	地域住民への活動の支援として、「情報紙ゆめ」は地域住民の自主活動の写真を多く取り入れ、地域住民と一緒に作っている親しみやすい情報紙となっている。専門職五者(中央保健センター安富分室、社会福祉協議会北部事務所、北準基幹地域包括支援センター、姫路市地域包括支援課、夢前地域包括支援センター)が集まり、地域課題の抽出や分析や方向性について検討し地域支えあいシステムの構築を目指している。また、地域で住み続けるためにBCP等の研究会を発足し、安心できる町作りに取り組んでいる。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	地域の活性化を図るための取り組みとして、警察、消防、連合自治会など含めた声かけを継続し、地域ケア会議を基盤として通いの場に結びつけ、介護予防、自立支援のために、地域活動への参加など多様なサービスの活用が期待される。

評価項目・着眼点	<b>基本目標4：認知症とともに暮らす地域の実現</b>	
	認知症は誰もがなりうるものであり、認知症になっても、住み慣れた地域の中で尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けることができる共生社会を目指します。また、認知症の発症を遅らせることができる可能性が示唆されていることを踏まえ、予防(認知症になるのを遅らせる。認知症になっても進行を緩やかにする)に関する取り組みを推進します。	
	①	認知症にやさしい地域づくり 認知症サポーターが地域で活躍できる機会の充実を図る。認知症の本人が、自身の希望や必要としていること等を本人同士で語り合う場を設置する。
	②	認知症になるのを遅らせるための取り組み 高齢者が身近に通える場等の拡充。通いの場を活用し、認知機能低下がある人や、認知症の人に対して、早期発見・早期対応が行えるよう、医療機関とも連携した支援体制の整備。
センター記入欄	③	認知症になっても地域で暮らし続けるための取り組み 認知症の種類や進行段階、生活環境に応じた適時・適切な医療・介護の提供が出来るようになる。
	取り組みの状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症サロン」を継続支援することで、認知症サロンの参加者が認知症予防としての意識は芽生えてきた。また認知症のある利用者に対して支え合いができてきた。</li> <li>・北圏域(安富、香寺、北、増位・広嶺、夢前)で認知症担当者の連絡会を開催し、認知症初期集中支援事業の取り組みについて話し合い、ブロック研修でもこの事業について説明した。</li> <li>・「認知症サポーター養成講座」を夢前高校のボランティア部の学生に対しおこなった。</li> </ul>
	現在課題と感じていること	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症サロン」の継続支援について、フレイルチェックに時間と人手がかかる。</li> <li>・認知症初期集中支援事業をブロック研修で周知したが、事業としてすすんでいない。</li> <li>・「認知症サポーター養成講座」はコロナ禍で、小学校や中学校の取り組みがなくなった。</li> <li>・事業所に対する啓発ができていない。</li> </ul>
目標達成のための今後の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「認知症サロン」の継続支援に、認知症担当者だけではなく、地域包括支援センターの全職員の協力を得ておこなえるようにする。</li> <li>・認知症初期集中支援事業の取り組みを、北圏域で主任ケアマネジャーと認知症担当者と検討をつづける。</li> <li>・事業所への啓発の計画をたてる。</li> </ul>	
評価調査者記入欄	評価で確認した特徴的な取り組みや工夫点	「認知症サロン」の継続支援を継続しつつ、認知症サポーターの養成に繋がっている。全ての住民が判りやすい認知症の啓発について検討を進め、事業所への啓発協力を行っている。また、地域の高校のボランティア部において「認知症サポーター養成講座」を開催し、若年層の認知症への理解を促し関心を持ってもらう活動を進めている。
	次のステップに向けた気づきや期待したい点	「認知症サポーター養成講座」を基盤にして、年齢関係なく参加できる地域活動の場への参加につなげていく工夫を期待したい。